

## 平成29年度 提案型協働事業制度

### ■ 制度の目的

本制度は、地域課題や社会的課題の解決に向けた市民・行政双方の協働の取組を進めるため、市民からの提案をもとに市民と行政がそれぞれの特性を活かし、認め合いながら、協働して地域課題の解決を図ることを目的とする。

### ■ 制度の概要

市民団体に次のような事業提案を募集し、提案団体と関係課の協議及び選考会を経て採択された事業を平成29年度の事業としてモデル的に実施する。

- ◇ 公益性、社会貢献性があり、地域課題や社会的課題の解決が図れる事業
- ◇ 市民と行政が適切に役割分担でき、協働による相乗効果が期待できる事業
- ◇ 市の事業として現在確立されていない事業
- ◇ 先進性、先駆性等、工夫やアイデアがあり、市民の視点から企画された事業
- ◇ 尼崎市の総合計画の方向性に沿った事業

### 【選考結果】

11月30日締切 <b>提 案</b> →		関係課 <b>提案団体と関係課の協議</b> →		3月1日開催 <b>プレゼン審査会</b> 審査委員意見 →		<b>結 果</b>	
市民提案型	<b>特定非営利活動法人 阪神文化財建造物研究会</b> (代表理事 山崎 誠)	都市魅力創造発信課 開発指導課 歴博・文化財担当	2月22日協議	○サポーターの役割が捉え難い。観光ガイドでもなく建築の専門家でもないサポーターはどのような活躍が期待され、サポーターが増えるとどのようなメリットがあるのか具体的な目標設定をしてほしい。 ○歴史的建築物の教養講座ではないなら、サポーターの目指す姿を提示し、そこから養成講座の内容を考えてほしい。 ○建物の所有者に協力を得ること。情報発信についても工夫をしてほしい。 ○サポーターには、建物の所有者のメリットとなるようなサポートができるようにしてほしい。建物を活用してほしい人と、見てほしくない人とではサポートのやり方が違う。 ○建物の利用については基本的なルールがある。所有者の気持ちを大切にし、そこを伝える内容が講座の中にあるべきである。	条件付で採択	<b>【結論】 養成するサポーター像を提示し、それに対してどのような講座をするか決定すること、補助金額を減額し団体内に支払われる謝金等を除くことを条件に採択する。</b>	
	事業名： 歴史建築観光サポーター養成事業  事業内容 尼崎市は歴史と文化に富む地域があり、歴史文化を体現した歴史的建築物が存在している。しかしながら、その歴史的建築物を活かした地域活性化や観光振興及び歴史的建築物の保存・継承は十分とは言えず、特に市民がそれらに関わり協力して活動状況は多くない。そこで地域の歴史的建築物を活かした地域活性化を市民レベルで応援する観光文化サポーターの育成を行う。 歴史的建築物を中心とした歴史に関心をもつ市民を対象に、歴史的建築物に関する専門家であるヘリテージネージャーから建築の歴史や構成、文化的背景を学ぶ、歴史的建築物を中心とした文化財全般・市内の歴史的建築物を紹介する座学や市内の歴史的建築物へ出向き、その歴史や構成、文化的背景を学ぶ現地学習会を行う。  行政役割 ・事業実施へのアドバイス ・参加者の募集 ・座学の場の提供 ・歴史的建築物所有者との折衝協力 ・現地学習会のサポート	関係課	・歴史的建築物を活かした地域活性化や歴史的建築物を保存・継承していく活動に、市民に関わり協力していくことの必要性については認識を共有できている。専門的な知識を持つ団体が、市民と行政のつなぎ役として歴史的建築物を保存・継承する活動を行うことは大変有意義であり、その必要性は高いと考ええる。また、市として、歴史的建築物には観光資源としても一定のニーズがあると考えている。 ・市には文化財行政や都市美行政のなかで培ってきた知識や情報、人脉等の蓄積があり、それらを活用することにより本事業の内容の充実や受講生の安心度の深まりが図れるので、市との協働は不可欠である。広報においては、市にすでに利用可能な制度があるため、現在の制度運用の中で対応していく。 ・現地学習会の見学先としてふさわしい歴史的建築物で、休日に見学できる建物が市内にはあまり存在していないため、現地学習会の日程については検討を要する。	関係課	【結論】 養成するサポーター像を提示し、それに対してどのような講座をするか決定すること、補助金額を減額し団体内に支払われる謝金等を除くことを条件に採択する。	採択	<b>【結論】 趣旨も手法も問題ない。</b>
市民提案型	<b>特定非営利活動法人 人と自然とまちづくりと</b> (代表理事 横山 あおい)	公園計画・21世紀の森担当	12月27日、2月23日協議	○他の団体や事業者とのネットワークをどうしていくかが課題。実行委員会の段階からたくさんの方の団体を巻き込みコラボしてほしい。 ○環境に関心の無い人に来てもらいたいならば、そういう人に企画段階から入ってもらえるかどうか。アミューズメントが得意な団体とのコラボができないか。 ○「あまがさき環境オープンカレッジ」とコラボしてみよう。市内に拠点がないため、市内の団体とコラボできたらよい。 ○環境について取り組んでいる団体のプラットフォームとして機能するとよいのでは。 ○スマートフォンを使用した情報発信など、新しいツールを使用して取り組むとよいのでは。ITに強いところにも関わってもらおう、そのような人の、環境に対する意識も高まる。 ○バリアフリーについても配慮すること。スマートフォン等のメディアを使用すれば障害を乗り越えるツールとしても使えるのではないかと。 ○市外の団体が事業を行うことで、市外の人からいい刺激をうけられる。	採択	<b>【結論】 趣旨も手法も問題ない。</b>	
	事業名： 尼崎臨海部を活用した地域の魅力発信事業  事業内容 尼崎臨海部は、行政が基盤整備等に積極的に取り組み、水質を含む周辺環境も改善され、イベントも多く行われているが、ごく一部の市民に知られていないととどまっておき、市民が臨海部の魅力を十分に認識しているとは言えない。また、臨海部の事業所と市民活動との関係も希薄である。工業地帯である臨海部は近づくににくい場所だと思われているが、運河や開門、各種イベントなど魅力ある場所に変わりつつある。その臨海部を広く市民に知ってもらい、事業所も巻き込みながら活性化をめざす。そこで、宝探しを要素を取り入れたまち巡りを実施する。「臨海部の魅力」という宝をめぐる、運河の水の透明度を測るなど、臨海部の魅力を認識、及び体験しながら解いてもらうクイズにチャレンジしてもらう。  行政役割 ・県や庁内他課との調整 ・参加者、参加団体の紹介 ・実施当日の運営 ・広報(市報、市ホームページ等)	関係課	・尼崎市の臨海部の認知度の低さや、既に行っている臨海部の魅力発信のイベントの参加者の固定化という課題や、臨海部の活性化の必要性について共通認識をもっている。 ・臨海部の魅力発信の新たな手法として、臨海部を舞台に、近年人気のある脱出ゲームの要素を取り入れた事業を実施し、臨海部に興味のない「無関心層」にも参加してもらい、将来的には臨海部のまちづくりの担い手を増やすことを目指す。 ・市では平成25年度からキャナルガイド養成講座を実施し、修了者がキャナルガイドの会を立ち上げ、キャナルウォーク等を通して臨海部の魅力を発信しているが、参加層が固定化しているという課題がある。提案団体は、尼崎港を拠点に地元小学校やNPO等と連携してまちづくりや環境改善活動をしている実績があり、この団体の持つネットワークや活動ノウハウを活かして新たな魅力発信事業を展開することで、次世代に向けたまちづくりの担い手の発掘につながるかと考える。 ・臨海部を舞台に広範囲で事業を実施するため、事業の運営においては適正な人員配置が必要である。また、脱出ゲームの要素を取り入れた事業内容とするため、学びに繋がる優れた問題を作成すること、企業との連携についても工夫が必要である。	関係課	○スマートフォンを使用した情報発信など、新しいツールを使用して取り組むとよいのでは。ITに強いところにも関わってもらおう、そのような人の、環境に対する意識も高まる。 ○バリアフリーについても配慮すること。スマートフォン等のメディアを使用すれば障害を乗り越えるツールとしても使えるのではないかと。 ○市外の団体が事業を行うことで、市外の人からいい刺激をうけられる。	採択	<b>【結論】 趣旨も手法も問題ない。</b>

